

## 第2期中期目標暫定評価報告(自己評価)の評定及び委員意見一覧

# 記載内容の説明について

◎ この資料は、法人から提出された「公立大学法人宮城大学業務実績報告書(平成27年度～平成30年度)」について、評価委員会の評価に資するよう、事務局で整理したものです。

◎ 報告書の「中期計画」の欄で、一連番号ごとに自己評価されているものを「中期目標」の単位で整理しております。

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	《参考》 評定実績			
										H27	H28	H29	H30
<b>第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</b>	0	2	72	1	75	97.3%	1.3%						
1 教育に関する目標を達成するための措置													
(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置													
1 イ 学士課程 No.1～6		1	4		5	80.0%	0.0%	C	【評価】 【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】	A	A	B	B
2 ロ 大学院課程 No.7～11		1	3		4	75.0%	0.0%	C	【評価】 【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】	A	A	C	C
(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置													
3 イ 学士課程 No.12～24	0	0	13	0	13	100.0%	0.0%	A	【評価】 【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】	A	A	A	A
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.12～15													
(ロ) 共通教育(基盤教育) No.16～19													
(ハ) 専門教育 No.20～22													
(ニ) 教育方法と成績評価 No.23～24													

報告書を中期目標の項目ごとに整理し直しました。

資料1の細目の一連番号をNo.1～142で右に記載

この資料における  
通し番号

この単位で項目別評価  
をお願いします。

○過去の評定結果を記載しています。  
評価の参考としてください。

○法人の自己評価に対して「評価欄」に「S～D」の評価を、「委員意見欄」に意見を記載してください。その際「仮評価」をご参考ください。

○法人の自己評価を集計しました。

評定	法人の自己評価(4段階評定)
IV	中期計画を大幅に上回って実施している
III	中期計画を予定どおり実施している、又は達成の見込が十分にある
II	中期計画を十分に実施していない、又は達成の見込が不透明である
I	中期計画をほとんど実施していない、又は達成の見込がない

○記載されている数値は、「資料1」の「中期計画」欄の一連番号ごとに法人が自己評価した評定の集計値

○「参考資料1 評価の実施要領」第4「2項目別評価」の「評定の基準」に基づき機械的に「S～C」と仮評価しています。

評定	評価委員会の項目別評価(5段階評定)評定の基準
S	中期目標の進捗状況が非常に優れている (委員会が特に認める場合)
A	中期目標の進捗状況が良好である (自己評価の評定がすべて「IV」又は「III」)
B	中期目標の進捗状況がおおむね良好である (自己評価の評定で「IV」又は「III」がおおむね90%以上)
C	中期目標の進捗状況がやや不十分である (自己評価の評定で「IV」又は「III」がおおむね90%未満)
D	中期目標の進捗状況が不十分であり、法人の組織・業務等の見直しが必要である(委員会が特に認める場合)

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0	2	74	1	77	97.4%	1.3%	

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1

イ 学士課程 No.1～6		1	5		6	83.3%	0.0%	C
---------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見
--------------------

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
B	<p>○ 伊勢委員 B 留学生の受け入れ枠については、次期の見直しを検討することになるかと感じるため、その点で評価を下げなくてよいと考える。</p> <p>○ 伊藤委員 C 外国人留学生30%目標は、少子高齢化を想定されたの事であれば努力目標。</p> <p>○ 齋藤委員 B 外国人留学生の目標設定にはそもそも無理があったと考えるべきである。そうした事情があきらかになったとき、目標設定を再検討する仕組みをもっておくことも今後の課題と考えられる。</p> <p>○ 中島委員 C ○ 橋本委員 B 外国人留学生受け入れが評価Ⅱのため仮評価Cとなったが、目標値の設定に無理があったと思われる。次期中期目標検討の際は見直しが必要である。他の項目では入試広報・選抜方法等に工夫を凝らし、大学の入学者受け入れ方針に沿った適切な入学者選抜が行われていると認められる。</p> <p>○ 吉沢委員 A 留学生の入学者の未達成以外は、目標は達成されていると判断する。</p>
A 1	
B 3	
C 2	

A	A	B	B
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
2	□ 大学院課程 No.7～11		1	4		5	80.0%	0.0%	C

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
C	○ 伊勢委員 C 次期の改善策に期待する。
C 6	○ 伊藤委員 C 自治体派遣枠を増やす方向で検討されたい。
	○ 齋藤委員 C 大学院の定員設定そのものを見直すことは難しいと思われるが、充足率100%でなければ「達成」としないという考えではなく、たとえば80%を充足していればⅢの評定にするとといったような評価基準作りが必要かもしれない。
	○ 中島委員 C ○ 橋本委員 C 大学院定員未充足は多くの大学の課題となっているが、本学でも事業構想学、食産業学各研究科の定員未充足が続いている。各研究科で将来構想の検討が重ねられていることから、今後の展開に期待したい。
	○ 吉沢委員 C 定員の充足率に一部問題はありますが、内容は充実し目標は達成されている。

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	C	C

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程 No.12～24		0	0	13	0	13	100.0%	0.0%	A
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.12～15				4		4			
(ロ) 共通教育(基盤教育) No.16～19				4		4			
(ハ) 専門教育 No.20～22				3		3			
(ニ) 教育方法と成績評価 No.23～24				2		2			

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A ○ 伊藤委員 A 理念、学群ごとの目的が明確に成文化されたのが良い。
S 2	○ 齋藤委員 S 重点目標の達成に向けて、多くのプロジェクトが立ち上がり、一定以上の成果を出していると評価できる。
A 4	○ 中島委員 A ○ 橋本委員 S 平成29年度の学群制移行に伴う新カリキュラムの構築が順調に進み、フレッシュマンコアを核とした基盤教育でもアクティブ・ラーニング科目が積極的に導入された。特に兵庫県立大学との連携のもとに完成させたコミュニティ・プランナープログラムをもとにした地域社会の担い手育成プログラムは特筆すべき成果を挙げている。また、シラバスのチェック体制の強化による質の向上、オンライン学修管理システムの導入、各コモンズを中心とする施設整備など、学生の学内学修環境の整備が進んだことは高く評価できる。
	○ 吉沢委員 A 十分に達成されている。

A	A	A	A
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
4	□ 大学院課程 No.25～34			10		10	100.0%	0.0%	A
	(イ) 教育課程編成の基本方針 No.25～28			4		4			
	(ロ) 各研究科 No.29～31			3		3			
	(ハ) 教育方法と成績評価 No.32～34			3		3			

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>定員未充足のなか、各研究科での将来構想の検討が進められており、課題を克服した展開となることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul> <p>学生のプレゼン力などは在学中の国内、外の発表の経験が必要でないか。また英語の抄録、論文を書く経験も積み重ねることが今後必要と考える。</p>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	A

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

5	イ 適正な教員配置 No.35～38			4		4	100.0%	0.0%	A
---	--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>平成29年度の学群制移行に伴い、教員組織も学系制に移行した。学系制の課題が見えるなか、改善に向けた取り組みが進んでいる。教員採用に当たっても優秀な人材確保に向けて、様々な工夫や努力が重ねられていることは評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul>

A	A	A	A
---	---	---	---

6	□ 教育及び教員の質の向上 No.39～42			4		4	100.0%	0.0%	A
	(イ) 教員評価 No.39			1		1			
	(ロ) 授業評価 No.40			1		1			
	(ハ) 教員研修 No.41～42			2		2			

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>教員評価では、各教員の納得が得られる目的が明確な評価制度を目指した検討が重ねられており、授業評価では学生の回答率の向上を目指すとともに、PDCAの仕組みが構築され授業改善へと繋がっていることは、各学群・研究科のFDが計画通り実施されていることと合わせて評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul> <p>FDを行い、努力されている。</p>

A	A	A	A
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
7	ハ 教育環境の整備 No.43～45			2	1	3	100.0%	33.3%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
S	○ 伊勢委員 S 前期からの大きな改善があったように感じている。さらなる整備も進めていて、最終的な評価を上げてよいのではないか。
S 4	○ 伊藤委員 A ○ 齋藤委員 S 教育環境の整備プロジェクトが進められ、大きな成果が見られたと評価できる。
A 2	○ 中島委員 S コモンズを始めとする、学生同士の学びの環境が整備されている。
	○ 橋本委員 A 語学力の向上や留学支援に資するコモンズの整備や図書館の館内整備が行われ、図書館の蔵書・情報の保管・流通の効率性・移動性の向上が図られ、教育環境の整備が進んだことを評価する。
	○ 吉沢委員 S 素晴らしい教育環境に整備された。

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	S

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
8	イ 学修支援 No.46～49			4		4	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A ○ 伊藤委員 A ○ 齋藤委員 A ○ 中島委員 A ○ 橋本委員 A
A 6	きめ細かな学習支援体制の整備、また心身の悩みを持つ学生への支援体制の整備を進め、低い休学率・退学率を維持していること、カリキュラムマップや履修モデルの提示により学修目標が明確になったこと、「学習ポートフォリオ」による自己点検が可能になったこと、等により学習支援が進んだことを評価する。
	○ 吉沢委員 A 学生支援は様々な方法によって試みられ成果を上げている。

A	A	A	A
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
9	□ 生活支援 No.50~52			3		3	100.0%	0.0%	A
10	ハ 就職支援 No.53~57			5		5	100.0%	0.0%	A
11	ニ 社会人・留学生への支援 No.58~59			2		2	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A A 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>一般学生, 障がいを持つ学生, 留学生, 社会人学生等, それぞれのニーズに合った支援体制が整備され, 各センター, 教員等が連携して対応していることを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul> <p>充実している。</p>
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A S 3 A 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 S</li> </ul> <p>就職率100%であるため。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 S</li> </ul> <p>きめ細かな就職支援体制を敷き, 長年にわたり高い就職率を維持しているとともに, 就職後も企業等へのヒアリングやアンケートを実施し, その結果をキャリア教育・就職支援に生かしていることを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 S</li> </ul> <p>十分な成果を上げている。</p>
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A A 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>社会人・留学生への支援も, 中期計画をほぼ達成しつつあると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
B	A	A	A

A	A	A	S
---	---	---	---

S	S	A	A
---	---	---	---

評価項目	学群評価					Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
	I	II	III	IV	計			

法人の自己評価に対する委員評価・意見
<p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>○ 齋藤委員 看護師や保健師の国家試験合格率の高さ、就職率の高さは、宮城大学における教育の「質保証」を示す重要なエビデンスとなっている。</p> <p>○ 橋本委員 新たなCP・DPIに基づく教育課程の再編が順調に進み、フレッシュマンコアを核とした基盤教育科目、学群コアカリキュラムなどの開設再編成が進むと同時にカリキュラムマップにより学修の指針を学生に明示したことを評価する。また、シラバスのチェック体制の強化による質の向上、オンライン学修管理システムの導入、図書館・各コモンズを中心とする施設整備など、学生の学内学修環境の整備が進んだことを評価する。また、きめ細かな学修・就職をはじめとする各種学生支援により、退学者等を低減させ、高い就職率を維持していることは評価できる。全体に、各センター、教員等の連携が進み、PDCAサイクルが機能していることがうかがえる。</p> <p>○ 吉沢委員 学部教育では非常に充実しており、問題はない。しかし、留学生の目標達成は現実的ではないので見直す必要がある。大学ランキングを上げる、留学生を入学させる学群の特定化などを考えてみてはどうか。</p>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

12	イ 研究の方向性 No.60～63			4		4	100.0%	0.0%	A

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<p>○ 伊勢委員 A</p> <p>○ 伊藤委員 A</p> <p>○ 齋藤委員 A</p> <p>○ 中島委員 A</p> <p>○ 橋本委員 A</p> <p>時代や地域のニーズ、東日本大震災の復興に対応したテーマ設定や学群横断的な研究を促進したことを評価する。</p> <p>○ 吉沢委員 A</p>

A	A	A	A
---	---	---	---

13	ロ 研究水準の向上 No.64～65			2		2	100.0%	0.0%	A

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<p>○ 伊勢委員 A</p> <p>○ 伊藤委員 A</p> <p>○ 齋藤委員 A</p> <p>○ 中島委員 A</p> <p>○ 橋本委員 A</p> <p>概ね計画の目標値に達している。</p> <p>○ 吉沢委員 A</p>

A	A	A	A
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
14	ハ 研究成果の地域社会への還元 No.66～68			3		3	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> </ul> <p>A 6 自治体のニーズを調査し、更なる地域連携センターの活躍に期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>教職員の配置により地域連携センターの機能の向上が図られ、産業界・自治体との交流・連携が進んだことを評価する。研究成果のウェブサイトでの発信、シーズ集の発行、学術指導契約の試行、地域住民向けの公開講座の開催等により研究成果の地域への還元が行われたことを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
S	A	A	A

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

15	イ 研究の実施体制 No.69～71			3		3	100.0%	0.0%	A
----	--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>A 6 地域連携センターの機能が向上し、対外的・対内的な連携が大きく進んだこと、また研究不正を防止する取り組みが行われていることを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul>

A	A	A	A
---	---	---	---

16	ロ 研究費の配分 No.72～76			5		5	100.0%	0.0%	A
----	-------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>A 6 研究費の公平かつ競争的な配分に腐心していること、また被災地復興に向けて研究への配分を手厚くするなど、本学の研究力発揮に向けた方策を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul>

A	A	A	A
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
17	ハ 研究者の配置 No.77			1		1	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul>
A 6	<p>【特記事項に関する委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 齋藤委員 県立大学の重要な役割として、地域社会の課題に応える研究の推進があるとすれば、そうした研究に関する数的指標をもつことが今後の課題となるのではないかとと思われる。</li> <li>○ 橋本委員 震災復興特別研究への取組、地域連携センターの機能強化による共同研究の広がり等、大学主導の研究が進んでいることを評価する。また、公平かつ競争的な研究費の配分に注力し、研究水準の向上を図ったこと、研究成果の発信に努めたことも評価できる。</li> <li>○ 吉沢委員 研究ではA評価になっているが、改善の余地はあると考える。研究成果の評価をもう少し考える必要がある。</li> </ul>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	A

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	22	1	23	100.0%	4.3%
-----------------------------	---	---	----	---	----	--------	------

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
18	(1) 地域社会への貢献 No.78~83			6		6	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul>
A 6	<p>県内の病院・企業での実習やインターンシップ、県内全域での体験・体感型学修の導入により地域社会に貢献する人材育成が行われたことを評価する。図書館の施設利用について地域に開放されていることを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A 十分に達成されている。</li> </ul>

H27	H28	H29	H30
A	A	A	A

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
19	(2) 産学官の連携 No.84～86			3		3	100.0%	0.0%	A

20	(3) 大学間及び高等学校との連携 No.87～89			2	1	3	100.0%	33.3%	A
----	----------------------------	--	--	---	---	---	--------	-------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>地域連携センターの機能強化により、企業・団体・自治体との連携が更に進み、地域ニーズと本学のシーズとのマッチングにより、地域課題解決活動が推進されたことを評価する。また受託調査事業を、大学全体の資源を生かして地域連携センターが行うようになったことを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul> <p>3学群がそれぞれの特徴を生かし、産学連携を目指すことが必要。</p>
A 6	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 S</li> </ul> <p>S 2</p> <p>A 4</p> <p>兵庫県立大学との関係のもとに進められた「コミュニティ・プランナー科目は、県立大学として重要な課題への挑戦であり、成果もあったと認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中島委員 S</li> </ul> <p>兵庫県立大学との連携のもと、地域社会の担い手となる「コミュニティ・プランナー」育成のためのコミュニティ・プランナー・プログラムが完成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 橋本委員 A</li> </ul> <p>兵庫県立大学との連携のもと、地域社会担い手を育成するコミュニティ・プランナープログラムが完成し、その後のカリキュラムに引き継がれていることを評価する。また「高大連携事業調整会議」の開催を通して、高校のニーズや課題を共有し、次世代の育成に有効な高大連携を推進していることを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul> <p>十分に達成されている。</p>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	A

A	A	S	A
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
21	2 国際交流等に関する目標を達成するための措置 No.90～96 (1) グローバル化を推進するための教育環境整備 No.90～91 (2) 海外大学等との連携 No.92～93 (3) 留学・留学生支援 No.94～96			7	0	7	100.0%	0.0%	A
22	3 東日本大震災からの復旧・復興支援に関する目標を達成するための措置 No.97～100			4		4	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A ○ 伊藤委員 A ○ 齋藤委員 A ○ 中島委員 A ○ 橋本委員 A 海外協定校への留学生派遣をはじめ各種事業・奨学金を利用した留学が進み、グローバルな視点を開く教育・研修プログラムの充実が図られたことを評価する。派遣が進む一方、受け入れに関しては課題も多いが、今後の展開に期待したい。 ○ 吉沢委員 A 国際交流が充実している。双方向性をさらに期待する。
A 6	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A ○ 伊藤委員 A ○ 齋藤委員 A ○ 中島委員 A ○ 橋本委員 A 本学の強みを生かし、被災地の復興に寄与できたことを評価する。今後は寄付金他財源の先細りも想定されるため、本学としてどのように対応すべきか、方向性の見直しが求められる。 ○ 吉沢委員 A
A 6	【特記事項に関する委員意見】
	○ 齋藤委員 コミュニティ・プランナー育成プログラムのいっそうの推進とそこで育った人材を地元自治体のスタッフとしてどう活かすのか、そのための仕組み作りが今後の課題となると思われる。 ○ 橋本委員 兵庫県立大学との連携のもと、コミュニティ・プランナープログラムを完成させ、カリキュラムに取り入れ、学修成果が挙がっていることを評価する。高大連携事業についても高校との丁寧なコミュニケーションを重ね、実のある進捗が見られることを評価する。

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
S	A	A	A

A	A	A	A
---	---	---	---

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	14	0	14	100.0%	0.0%	

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

23	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築 No.101～105			5		5	100.0%	0.0%	A
----	---------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

24	(2) 戦略的な予算等の配分 No.106			1		1	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

25	(3) 学外の有識者等の登用 No.107～108			2		2	100.0%	0.0%	A
----	---------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

26	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 No.109			1		1	100.0%	0.0%	A
----	-------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

27	3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 No.110～112			3		3	100.0%	0.0%	A
----	-------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見
--------------------

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A
A 6	○ 伊藤委員 A
	○ 齋藤委員 A
	○ 中島委員 A
	○ 橋本委員 A
	○ 吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A
A 6	○ 伊藤委員 A
	○ 齋藤委員 A
	○ 中島委員 A
	○ 橋本委員 A
	○ 吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A
A 6	○ 伊藤委員 A
	○ 齋藤委員 A
	○ 中島委員 A
	○ 橋本委員 A
	○ 吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A
A 6	○ 伊藤委員 A
	○ 齋藤委員 A
	○ 中島委員 A
	○ 橋本委員 A
	○ 吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A
A 6	○ 伊藤委員 A
	○ 齋藤委員 A
	○ 中島委員 A
	○ 橋本委員 A
	より適正な制度をめざす教員評価制度の抜本的再構築の方向性について評価する。年俸制は本来の意義を生かせる制度になるかどうかは鍵と思われるため、周辺の動向に惑わされない慎重な判断が求められるのではないかと。
	○ 吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

28	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
		4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 No.113~114			2		2	100.0%	0.0%

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<input type="radio"/> 伊勢委員 A <input type="radio"/> 伊藤委員 A <input type="radio"/> 齋藤委員 A <input type="radio"/> 中島委員 A <input type="radio"/> 橋本委員 A <input type="radio"/> 吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	
<input type="radio"/> 齋藤委員 教員評価の制度づくりが試行錯誤の状態にあるのはむしろ健全な姿であろう。「教員評価制度は必要である」という原則は守りながら、不断の点検、評価を行いながら、少しずつ改善していくという姿勢を持つことを期待したい。 <input type="radio"/> 吉沢委員 運営体制は整っており、特記すべきことはなし。	

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	A

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	1	10	0	11	90.9%	0.0%
-------------------------------	---	---	----	---	----	-------	------

29	1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 No.115~119					5	80.0%	0.0%	C
		I	II	III	IV				
	(1) 外部資金の獲得 No.115~116		1	1		2			
	(2) 自己収入の確保 No.117~119				3	3			

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
C	<input type="radio"/> 伊勢委員 C <input type="radio"/> 伊藤委員 C <input type="radio"/> 齋藤委員 C
C 6	外部資金の獲得については、目標設定が少し高すぎたと考えられるが、次の中期計画において対応するしかないであろう。 <input type="radio"/> 中島委員 C <input type="radio"/> 橋本委員 C 数値目標の設定は難しいところではあるが、達成可能見込額と大きく乖離しないことが望まれる。 <input type="radio"/> 吉沢委員 C 大型研究費が取れる仕組み作りが必要と考える。

C	C	C	C
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
30	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.120～123			4		4	100.0%	0.0%	A

31	3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.124～125			2		2	100.0%	0.0%	A
----	---	--	--	---	--	---	--------	------	---

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

32	1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置 No.126～129	0	0	5	2	7	100.0%	28.6%	
----	---	---	---	---	---	---	--------	-------	--

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A H30年度の評価要因となったシステム開発の遅延については、中期評価に影響しないものとしてよい か。 ○ 伊藤委員 A ○ 齋藤委員 A ○ 中島委員 A ○ 橋本委員 A ○ 吉沢委員 A
A 6	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A ○ 伊藤委員 A ○ 齋藤委員 A ○ 中島委員 A ○ 橋本委員 A ○ 吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	
	○ 齋藤委員 外部資金の獲得については、一般的なものだけでなく、地域連携センターの活動による新たなタイプの資金獲得を期待したい。 ○ 橋本委員 外部資金獲得の数値目標の設定は難しいところではあるが、達成可能見込額と大きく乖離しないことが望まれる。

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	B

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	○ 伊勢委員 A ○ 伊藤委員 A ○ 齋藤委員 A ○ 中島委員 S 学長の主導のもとに自己評価に厳しめの評価を付し、向上に努めていることを評価する。 ○ 橋本委員 A 学内各所でPDCAサイクルが図られていることを評価する。評価制度上の問題点は多々あるが、そのなかで評価のための評価作業にならないよう、可能な限り、真に大学の運営に資するような評価を目指してほしい。 ○ 吉沢委員 A
S 1	
A 5	

A	A	A	A
---	---	---	---

33	評価項目	I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価
		2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.130～132			1	2	3	100.0%	66.7%

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
S	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 S</li> <li>○ 伊藤委員 S</li> <li>○ 齋藤委員 S</li> </ul> <p>S 6 計画(P)と実施(D)が順調に進んでいることは高く評価できるが、今後は検証(C)と改善(A)にも力をいれることが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中島委員 S</li> <li>○ 橋本委員 S</li> </ul> <p>情報発信を社会から信頼を得るためのコミュニケーションであることを明確にし、戦略的な広報活動を実現するために、効果的・効率的な広報体制を確立したことを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉沢委員 S</li> </ul>
	【特記事項に関する委員意見】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 齋藤委員 大学及び法人の短期的な重点目標設定とそれに関する自己点検・評価、中期計画に設定された中期的目標設定とそれに基づく点検・評価、さらには第三者機関による認証評価のための目標設定とそれに関する自己点検・評価と認証評価の関係を整理し、「評価疲れ」とならないような仕組みが必要であると思われる。</li> <li>○ 橋本委員 情報発信を社会から信頼を得るためのコミュニケーションであることを明確にし、戦略的な広報活動を実現するために、効果的・効率的な広報体制を確立したことを評価する。</li> </ul>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	S

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとすべき措置		0	0	10	0	10	100.0%	0.0%	
34	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.133～136			4		4	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul> <p>A 6</p>

A	A	A	A
---	---	---	---

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
35	2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.137～140			4		4	100.0%	0.0%	A

36	3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.141～142			2		2	100.0%	0.0%	A
----	------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

合計		0	3	135	4	142	97.9%	2.8%	
----	--	---	---	-----	---	-----	-------	------	--

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul>
A 6	
【評価】	【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伊勢委員 A</li> <li>○ 伊藤委員 A</li> <li>○ 齋藤委員 A</li> <li>○ 中島委員 A</li> <li>○ 橋本委員 A</li> <li>○ 吉沢委員 A</li> </ul> <p>教員・職員のハラスメント研修会も定期的を開催することを期待する。</p>
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	
	○ 齋藤委員 障害をもった学生のための「合理的配慮」のための体制整備に関する記述が必要であると思われる。

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30
A	A	A	A

A	A	A	A
---	---	---	---

仮評価	S=	1
	A=	32
	B=	0
	C=	3
	D=	0
	S～D合計	36

【暫定評価に対する意見・次期中期目標に向けた意見】(全体評価)	
○ 伊藤委員	
・ 大和キャンパスと太白キャンパスの交流をさらに強化すべき。	
・ 留学生の増員に関しては、段階を踏まえた計画変更が望まれる。	
・ 県内自治体との連携を一層密にし、高度な実学を地域で実践されることを期待する。	

S=	3	1	1	3
A=	31	34	32	29
B=	1	0	1	2
C=	1	1	2	2
D=	0	0	0	0
合計	36	36	36	36

評価項目						Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
	I	II	III	IV	計			

法人の自己評価に対する委員評価・意見
<p>○ 齋藤委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体として、第二期中期計画は順調に進んでいると評価できる。</li> <li>・ 学士課程において教育内容・方法の改善に向けたさまざまなプロジェクトが進められ、成果を上げていると評価できる。また、教育環境の改善も大きく進んでいる。</li> <li>・ 今後の課題として、さまざまな目標設定の整理をあげておきたい。具体的には、中期計画における目標設定とは別に年度ごとの短期的重点目標の設定が必要と思われるが、その場合、両者を区別し、どう関係づけていくかが重要である。また、中期計画による目標設定と認証評価のための目標設定の区別と関係づけも課題となろう。</li> </ul>
<p>○ 橋本委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期目標期間4年目が経過し、学群学系制への移行が順調に進み、入試改革、教育課程の再編、基盤教育科目・学群コアカリキュラムなどの開設再編成が行われ、またカリキュラムマップにより学修の指針が学生に明示され、新たなAP・CP・DPのもと、学修体制が大きく改善されたことが認められる。また、シラバスのチェック体制の強化による質の向上、オンライン学修管理システムの導入、図書館・各コモンズを中心とする施設整備など、学生の学内学修環境の整備が進んだことも評価できる。</li> <li>・ きめ細かな学修・就職をはじめとする各種学生支援により、低い休学・退学率や高い就職率を維持している。</li> <li>・ 兵庫県立大学との連携のもと、コミュニティ・プランナープログラムを完成させ、同プログラムをカリキュラムに取り入れ、学修成果が挙げられていることは、地域に貢献できる人材育成が進んでいることの一例であろう。また地域連携センターの強化により、地域問題解決活動が推進され、教育研究と地域貢献がより有機的に機能するようになった。</li> <li>・ 高大連携事業についても高校との丁寧なコミュニケーションを重ね、実のある進捗がみられる。</li> <li>・ 全学多方面で、各センター、教員等の連携が進み、PDCAサイクルが機能していることがうかがえる。</li> <li>・ 次期中期目標設定に当たり、受け入れ留学生数、外部資金獲得額については見直しが必要と思われる。大学院の、定員未充足をはじめとする課題については今後の展開に期待したい。</li> </ul>

《参考》 評定実績			
H27	H28	H29	H30